

No.158 2022. 7

発行 真言宗豊山派
北田山寶泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

一切皆苦 という 覚悟

新型コロナウイルスのパンデミックから2年半が経ちました。今年に入ってから、感染の広がりや収束の兆しを見せ、各種行事も再開されつつあります。とはいえ、完全な形での開催はまだもう少し先になりそうです。

ここ寶泉寺の施餓鬼会（せがきえ）も、今年こそは例年通りにと考えていたのですが、7月に入ってから感染者増をふまえ、ご焼香はしていただくものの、堂内へのご参列は役員のみという形で執り行うこととしました（詳しくは枠内をご覧ください）。

しかし、なかなか思い通りにいかないものです。そういえばお釈迦さまは「一切皆苦」なんて教えを残されていましたっけ。

仏教で「苦」は「思い通りにならないこと」を意味します。「一切皆苦」つまり「全ては思い通りにならない」のがこの世界の

☆令和4年寶泉寺施餓鬼会

- ・ 8月11日午後2時開式。
- ・ 2時半前後より本堂浜縁のお賽銭箱付近に焼香台を設置しますので、そちらでご焼香をお願い致します。
- ・ お塔婆は法要終了(3時前後)以降に本堂浜縁にてお渡し致します。
- ・ るり洞と大師堂は冷房をいれ、お休みできるよう準備しますのでご自由にご利用ください。



真理であり実状だということです。究極のネガティブ発想です。

お釈迦さまはそんな世の中に対し腹をくくる、つまり「覚悟」することの重要性を説かれました。覚悟した上で少しでも「思い通り」になる部分を増やすべく、一人一人が懸命に考え、知恵を絞り、また他者と話し合い、協力して日々を紡いでいくことを尊いとされたわけです。究極のポジティブシンキングといえるかもしれません。

「一切皆苦」を「覚悟」することはとても大変なことです。それでもなお、その覚悟は私たちの背中を押してくれると信じています。(真了)

お盆合同法要

お盆に帰られたご先祖様のための合同法要を本堂で行っております。申し込みは不要です。どうぞお迎えの際にお気軽にお立ちよりください。

- 日時 8月13日(土) 午後4時 法要開始
- 会場 寶泉寺本堂 (集合 りり洞)

※新盆の合同法要は午後2時開式です



盆供・施餓鬼会

盆供(ぼんこ)は、例年どおり7月21日朝6時~9時です。今年のお施餓鬼については、本紙1ページ目の枠内をご確認ください。

盆供、施餓鬼塔婆のお申し込みはぜひぜひ 7月21日から7月末日までにお願い致します。

墓地清掃後の花がらや草、剪定枝等はゴミカゴへ。古いお塔婆は大師堂裏の塔婆置き場へお願い致します。可燃ゴミ類は軽トラック荷台へも結構です。

なお、お盆の後の竹などを含むお供物類は庫裡北側の毎年設置している保管場所へお願い致します。その際は可燃、破碎、不燃等ご家庭での普段通りの分別をして頂くとたすかります。



墓前香炉のハチの巣にご注意を!

檀信徒のおつとめを読む③



3. 三帰 (さんき p4)

今回は、自らの間違いや失敗をみとめ告白する「懺悔文 (さんげもん)」を紹介しました。

今回は「三帰 (さんき)」すなわち三つの対象に帰依するためのお経をご案内します。

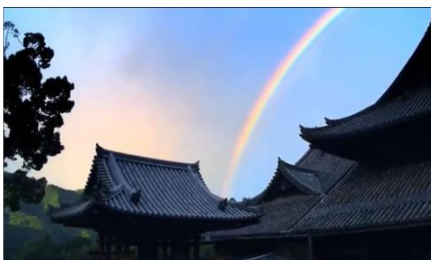
帰依とは「大切にします。お任せします。ついて行きます」等の敬意を示す言葉で、三つの対象とは「仏=仏さま」「法=仏さまの教え」「僧=僧団」を指します。そもそもこの「檀信徒のおつとめ」、特に序盤は仏教教団に加わるための作法が元になっていて、お釈迦さまと新しいお弟子さん (あなた) の対話と捉えてもらっても良いかもしれません。

「僧団」は単なる僧侶の集団ではなく「お仲間」ですから、お釈迦さまの「仏と教えと仲間たちを大切にできるかい？」という問いかけに私たちが「はい」と答えている図式になります。

なお、「弟子某甲」の「某甲」は一人でお唱えする場合は「自分の名前」を読み上げます。「尽未来際」は未来際が尽きるまで永遠にという意味です。

三帰
弟子某甲 でしむこう
尽未来際 じんみらいさい
帰依仏 きえぶつ
帰依法 きえほう
帰依僧 きえそう
御仏と聖法と之を伝持弘通する僧宝とに
帰依し奉る。

団体参拝を計画しています!!



虹の長谷寺

来年 2023 年は、お大師さまご生誕 1250 年という節目の年。真言宗本山級の寺院では様々な行事が予定されています。寶泉寺でも 4 年ぶりの団体参拝を来春に企画していますので、計画が定まりしだい正式にご案内致します。

SDGs (持続可能な開発目標)

ロシアが始めた戦争はまだまだ終息の気配はありません。その影響でエネルギーや穀物の高騰が騒がれています。一方では米価の低迷、小僧(しょうそう)の生まれ育ちは米どころの農村地帯、田んぼを見ると心が騒ぎます。中学生の頃までは食料不足の国で、両親は食べ物を粗末にすることにはとてもうるさかったものです。

そこで、いまこそ「ご飯を食べよう」と言いたい気持ちです。国全体では十分な自給力があり、カロリーも高く調理も簡単で炊きたてを冷凍しておけばいつでも手軽に口にすることが出来ます。特に我が家ではコロナ以来在宅がおおくなり内食率も高まり、このところお米の消費は増えているぐらいです。戦争、地球温暖化などで地球的には飢饉・飢餓、食糧不足も騒がれていますが、お米こそ SDGs (持続可能な開発目標) にかなう食料だと思います。

水田の稲作には畑作につきものの連作障害や塩害がありません。水と太陽と空気、それに田んぼがあればほぼ永久に耕作できます。食料自給率は低く、その廃棄率は高いのが我が国の現状、食糧不足も極まれば廃棄率は下がってくるのではと淡い期待ももてるかもしれませんが。しかし不耕作農地や農業従事者減少が話題に上ることが多く、いまこそ農業を守ることは SDGs の大きな要素です。

編集後記

- ・寶泉寺の大きな法要では、いつもお経の音頭をとってくださっていた三ヶ島 宝玉院の新井弘順師が遷化された。弘順師は豊山声明の研究者として、また指導者として卓越した方であり私自身どれだけお世話になったことか。
- ・「師匠を目指すのではなく、師匠が理想としていた境地を目指しなさい」と先人は言った。先生が目指した世界に辿り着けるわけもないが、その風景を見つめ精進したいと思います。(真了)
- ・今年のツユには驚いた。気候変動は確実に起こっている。40 数年家庭菜園を楽しんでいる。ジャガイモは収穫がお盆のせわしい時期と重なるので敬遠してきたがこの数年は作っている。今年は6月中に収穫完了。温暖化は身の回りにせまっている。
- ・電気が危ないという、そして携帯通信網が混乱、生活には欠かせないものだけに便利な生活にはリスクも伴うものだと実感。(真琴) Jul. 7. 2022